

・今回は、自分がクライアント役の時に、先日個人ボードでも触れた同僚Tさんの件について、話を聞いてもらった。私としては、自分が大事にしている優先順位と、Tさんの優先順位が違うことが原因だと思っていた。

でも、コーチ役の人から、「求めているものが高いと思う」と言われて、はっとした。

私の中では「こうするのが普通」と思っていて、自分の要求が高いとは夢にも思っていなかった。

そして、「Tさんがこれだったらやってくれると思うことは何か？」と続けて質問してもらったことで、初めてTさんの目線に立って考えることができた。

私は私の目線でしか物事を考えておらず、これじゃ交わる訳がない……。そもそも目線が違うことにすら、気付いてなかった。

自分の中のスタンダードな価値観であればある程、特別だと思いにくい。できて当たり前、普通だという物の見方をしてしまいがちだが、これは「自分の価値観」なんだとちゃんと認識していないと、こういうすれ違いに繋がってしまうんだと勉強になった。

---ここから続き---

自分の基準を相手に押し付けてしまうことがある。

プライベートであれば、まだ区別しやすい。でも、仕事においては、「仕事なんだから、お互いプロフェッショナルにやろうよ」という気持ちがある。

今回の件も自分の中では譲歩しているつもりだったが、相手の目線に立たない限り、その差は永遠に埋まることはない。そのことをものすごく実感できたセッションだった。

そして、自分がコーチ役の際は、クライアントが望むゴールを正しく理解することができなかった。

クライアントの相談は、現在進行形の問題ではなく、過去に起きたことに囚われているという内容で、クライアントが何を求めているのか、セッションの中でわからずに終わってしまった。これは自分のフィルターで物を見ようとしてしまったことが要因だと思う。

セッションでは、今後その相手とどう関わっていったらいいかという、具体的な方法に話を持って行ってしまったのだが、セッション終了後にオーディエンスのみんなの話を聞いて、クライアントは何にモヤモヤしているのか。その原因を知りたかったのだと気が付いた。

恐らく、クライアント自身も正確に把握できていた訳ではなかったと思うが、冒頭に「今年はコアを意識していこう」という話があった中で、早速意識できなかったなあと、その難しさを痛感した。

コアを意識するために、具体的にどうすればいいのかという話の中で、「後から振り返って気が付くこと」と、「経験を重ねていくこと」という話があった。

今回のセッションでいうと、冒頭にクライアントが、「次に同じことがあったらどうしたらいいかなあ」という発言をしていたのだが、私はそこには触れずにセッションを進めてしまったという反省がある。

クライアントの話すワードを、集中して聞いているつもりではあったけど、まだまだ聞き漏らしている場面があるし、今回のようにクライアントのゴールが明確でない場合は、クライアントの話す内容から、希望(こうしたい)と受け取れるものがあったら、そこを深掘りする意識を持っていきたいと思った。

(E.M 40代女性 埼玉県)